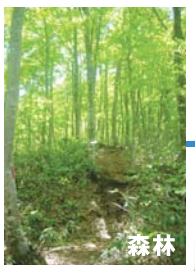
生物多様性と国立公園

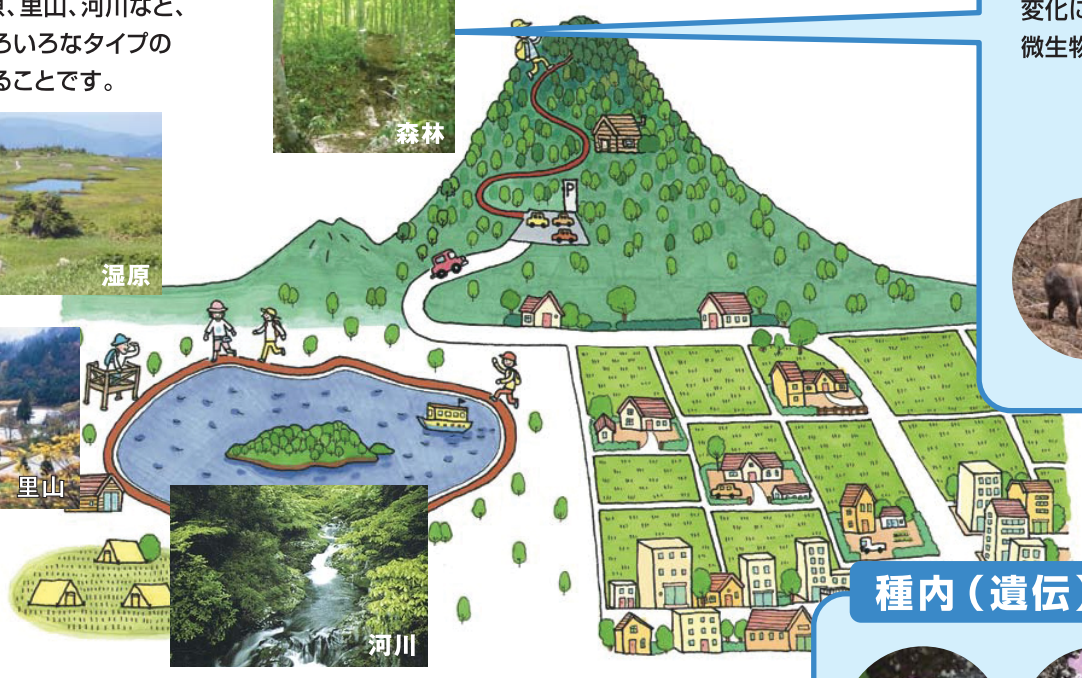
国立公園は、生態系ネットワークの中核です。

生物多様性とは、すべての生物の間に違いがあることです。生態系の多様性、種間の多様性、種内の多様性の3つのレベルの多様性があり、「個性」と「つながり」と言い換えられます。

生態系の多様性

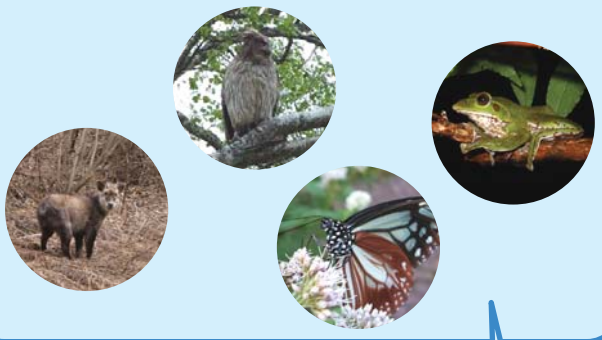
森林、湿原、里山、河川など、各地にいろいろなタイプの自然があることです。





種（種間）の多様性

変化に富んだ自然環境の中で動植物から細菌などの微生物に至るまで、いろいろな生きものがいることです。



種内（遺伝）の多様性

同じ種の中でも遺伝子の違いによって形態や習性等が違うことです。

例）シナノコザクラ（サクラソウ属イワザクラの変種）
サクラソウは同種であっても、長花柱花と短花柱花の様に、花に複数のタイプがあります。

国立公園は自然性の高い地域を丸ごと保護する制度で、生物多様性保全の屋台骨として国土の生態系ネットワークの中核となっています。

なぜ「生物多様性」が重要なのでしょう?

生物多様性は長い進化の歴史により創り上げられ、環境の変化に柔軟に対応できるなど、すべての生物が存立する基盤となっています。
人間にとって、①有用な価値（食料・農作物・医薬品）を持ち、②豊かな文化の根源であり、③暮らしの安全性を保証します。

生物多様性のめぐみ

人間生存の基盤

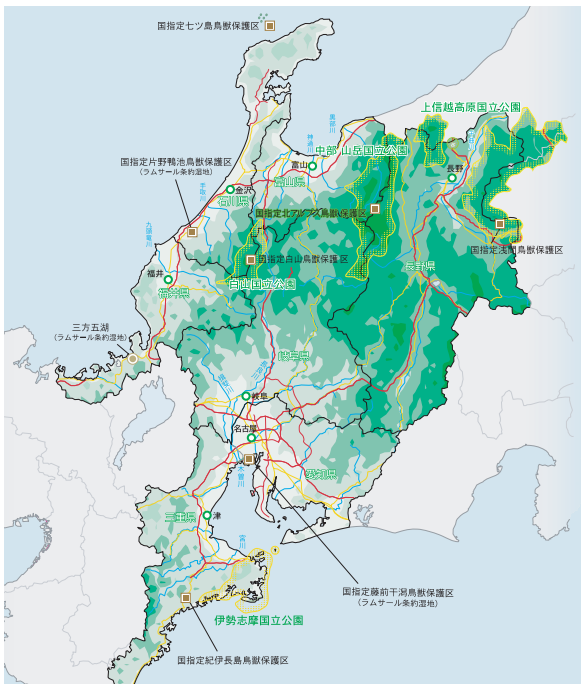
水源の涵養

有用な価値の源泉

サンマの水揚げ（気仙沼魚市場HPより）

豊かな文化の源泉

十二山祭り（新潟県南魚沼市）



中部地方の国立公園など